

新潟県の「少子化」時代

- データで見る新潟県の少子化問題
- 座談会・「少子化」時代の家族…子育ての指標を探る
 - 母親の子育ての悩みと希望（乳幼児）
 - 「少子化」時代の家族…子育ての課題を探る（小学校）
 - 荒れる中学生をどうみるか（中学校）
 - 学校生活から窺える高校生の放課後からの生活と親子像（高校）

他

「新潟県の子育て百科」出版記念シンポジウムの中であらためて子育ての状況が大きく変化していることが報告されました（にいがたの教育情報「第51号参照」）。今回の特集ではこの変化にもう一步踏み込んで考察をひろげてみました。「データで見る新潟県の少子化問題」は新潟県の家族構成の激変をつたえます。母親たちに、また幼年、小中高の保育者や教師たちに参加していただいた座談会では、それぞれの段階の子育ての課題を論じていただきました。

この座談会は受験競争社会の中におかれた学校教育のゆがみが子どもたちの発達をゆがめているという視点と「少子化家族」が地域社会の中で子育ての情報交換、子育ての支え合いの経験をもてず孤立していて、親と子の間で「人間関係」をきずき、ともに成長することがむずかしくなっていることを伝えています。

特集の最後に中学校、高等学校の家庭科の教科書の「家族」についての記述を家庭科教師のコメントをつけて紹介します。「家族とはなにか」をもう一度きちんと把えなおす出発点になればと思っています。